



長崎県立佐世保北中学校・高等学校

長崎県佐世保市八幡町6番31号

TEL 0956-22-4105/FAX 0956-22-5361

URL <http://www.news.ed.jp/sasebokita-h/>



第10号 令和2年3月24日発行

佐世保北高校卒業式

高校第3学年主任 松尾健司

令和2年3月1日、佐世保北高校の第72回卒業式が行われ、233名の卒業生が本校を卒業しました。折しも新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される状況の中、その感染防止のため中高の在校生が不参加となってしまったのは、本当に残念なことでした。しかし、令和となって最初の卒業式であり、72回生の旅立ちとなる記念すべき卒業式を無事に終えることができたのは、多くの方々に支えていただいたおかげです。心より感謝申し上げます。



卒業式は、学校が最も大事にしている行事の一つです。入念な準備・設営と、動作の練習を行います。ただ今年は、先に書いた通り在校生は参加せず、時間短縮のため内容の一部変更が行われ、式歌の斉唱もありませんでした。厳粛な雰囲気の中で行われた卒業式は、例年以上に静かに粛々と進みました。私個人は、担任による卒業生の呼名が進む中で、特にこの1年間の出来事を思い出していました。

3年生に進級して間もない頃は、果たして自覚ある受験生として進路実現ができるだろうか、毎日そのことを考えていました。授業に加え、高総体が終わると放課後補習、土日には模試と、受験生になった途端、生活は一変したものの、正直なところどのタイミングで真の受験生になってくれるのか、やはり心配ばかりが続きました。そんな中、9月の体育祭がやはり大事な転換点になったような気がします。72回生は佐北の最高学年として後輩たちの指導に情熱を注いでくれました。受験勉強を頑張らなければならない、でも先輩として体育祭を成功に導かねばならない。その両立に苦しみながらも笑顔で頑張る姿に、確かな成長を感じました。入学した頃のあどけない顔から考えると、目の前にいる3年生になったその顔は、とても凛々しく大人びて見えました。

修学旅行、球技大会に体育祭と、楽しい行事もたくさんありましたが、思い出すのは、72回生の真剣な顔でした。毎日質問を欠かさなかった人、寒風吹くベランダでの自学を続けた人、すぐに結果が出なくても諦めることなく努力を続けた人。今年の卒業式はスクリーンで全員の顔を映し出すことができなかったので、呼名とともにみんなの真剣な顔を思い出しながら卒業式を見守りました。



それぞれの進路へ旅立っていく72回生が、これからますます活躍してくれることを祈っています。頑張ってください。

72回生とともに多くの思い出を共有できた教員一同、みなさんに出会えたことを心から感謝しています。ありがとう。

佐世保北中学校卒業式

中学第3学年主任 黒須 広幸

北中14回生は、3月17日、無事卒業式を迎えることができました。今年は、新型コロナウイルスの影響で、卒業式へのカウントダウンをはじめた頃に、突然の休校となり、友だちと中学校のラストを満喫することもできない状態でしたので、卒業式当日、会えなかった時間を埋めるかのように、仲間たちと笑顔で式に臨む姿を見ると、胸が熱くなる思いでした。保護者の皆様におかれましても、お子様の立派に成長した姿に感慨もひとしおのことだと思います。中学校の3年間、学校へのご支援やご協力、本当にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。



私が14回生に出会ったのは2年前の春、彼らが中学2年生になった時のことでした。まだ、見た目にも小さく、なんとも頼りない印象だったのを今でも覚えています。それから学校行事を通して、様々な経験を積み、自信をつけ、今では見違えるほどに頼もしくなりました。特にこの1年間は、中学校のリーダーとして学校を盛りあげる姿が見られました。中でも、一からすべて生徒たち中心に創りあげた文化祭での学年ミュージカルは特に印象的で、これを通して、14回生はより一層強い絆で結ばれたのだと思います。



14回生はこの春、75回生として北高に入学します。これからもこの大切な仲間との出会いに感謝し協力し合いながらも、それぞれの個性を存分に伸ばして、大きくはばたいってほしいと思います。

令和元年度 中学校卒業論文発表会

中学第3学年 総学担当 大塚 洋輝

2月20日(木)5・6時間目に、中学3年生の総合的な学習の時間で取り組んだ卒業論文の発表会が行われました。4月末に計画を立て、12月に論文完成、1月にプレゼンテーションを完成させて学級で発表会を行い、各学級から代表者3名(計9名)が選出され、発表を行いました。



今年度は、例年からの改善点として、より大学で取り組むゼミや卒業研究に近い形にすることと、生徒同士の学び合いの場を多く取り入れることを意識し、テーマ発表・中間発表など、小グループでの発表・質疑応答を2度ほど取り入れました。同じような関心を持っている人と意見交換をすることによって、視野を広げ、より深い学びをすることができたように思います。

各クラスでの発表は個性豊かで、どのようなことにも疑問を持ち、一生懸命追究する、若い感性にあふれたすばらしいものばかりでした。特に代表に選ばれた9名の発表は、タイトルから興味を引きつけ、内容も大人の私たちでも感心するような、丁寧に調べられたレベルの高いもので、14回生の底力を感じました。



今回の取組を通して学んだ、興味を持ったことを納得するまで徹底的に調べたり、確かめたりして、「真理の扉」を開こうとする姿勢を、これからも持ち続けてほしいと思います。高校進学後の「総合的な探求の時間」でも、さらに深く、高度な研究成果を発表できることを期待しています。寒い中、参観してくださった保護者の皆様、ありがとうございました。中学3年生には、論文の論旨を全員分集めた論旨集も配付しています。そちらもぜひご覧下さい。